

情報表現基礎 I

担当教員	安井重哉
対象	学部1年生
科目群	1年次学部共通専門必修

授業概要

実社会では、知り得た知識を応用して、感性的な事柄も含めた評価を行い、試行錯誤を通じて魅力あるシステムを完成させている。本授業ではその体験として、解が一つだけではない感性による情報表現を行うための手続きを、計算論的思考に基づいて実行し、プロトタイピングを行う。受講者は成果物を制作し、言語化によって相互に評価しあい、再び自分の成果物に還元させる。この手続きを通して情報表現の基礎プロセスを学ぶ。授業は開発実習を中心に行う形式をとる。本授業は、芸術・デザイン・ヒューマンコンピュータインタラクションにおいて実務経験を有する教員達が授業を設計し教材を作成している。

キーワード

情報表現, プログラミング, プロトタイプ

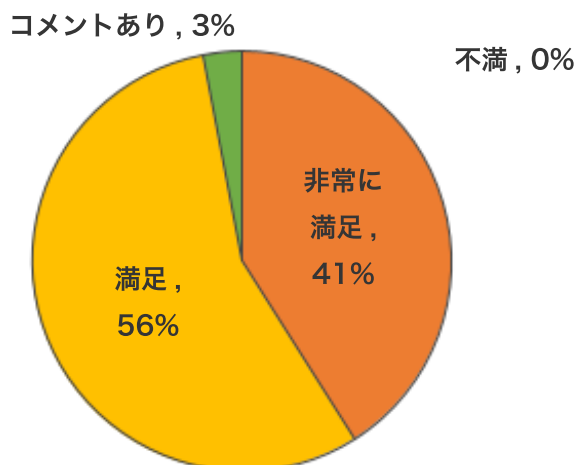
到達目標

1. 総合的な情報表現の成果物を計画立案・実施できる。
2. 提示された主題を的確に解釈し表現できる。
3. 制作した成果物の意図を簡潔に発表して文章作成できる。
4. 学生同士で互いに成果物の評価ができる。

授業フィードバックアンケート結果

授業満足度

非常に満足	41%
満足	56%
コメントあり	3%
不満	0%



授業フィードバックアンケート結果

来年度以降も続けてほしいこと（抜粋）

- 自分自身で作品を一から作る体験はしたことがなかったので楽しめました。
- 自由な表現ができるように指導がなされている。
- 作品発表の際にいるんな人から評価（コメント）をもらう時間があるが、そのコメントがお世辞であっても嬉しく思うし、今後創作活動などする機会があるときに励みになると感じたため続けてほしい。
- ほぼすべての時間を使って自分の作品を完成させることができるのがよかったです。
- それぞれの課題について過去の作品を掲示してくれること。また、課題に取り組む上での注意点を明確にしてくれていること。
- スクラップボックスによる講義の進行や、課題の説明など 課題発表における選抜作品の発表。
- 各自で発表する場を設けるところは素晴らしいと思います。
- 対面での発表はオンラインよりも製作者の意図が伝わりやすいので続けてほしい。

履修者から後輩へのアドバイス（抜粋）

- 楽しかったです。課題の内容が自由に組めるものだったので自主的に学びに行く姿勢が身に付きました。
- 「自己を表現する」という意味の解釈を広く捉えると、より優れた作品につながるのではないかと感じた。また、人によって表現の仕方が異なる点が非常に面白かった。
- 人によってお題の捉え方が異なり、なぜこうしたのかを聞くのが面白かった。
- 自身の基礎知識の無さから、課題について不安を持っていたが、あくまで自分が出来得る限りの中で課題の目標を達成すればいいということや、課題についての疑問についても真摯に解説してくれていて、最低限の目標は達成できたように感じる。
- 表現したいことはいろいろな視点から考えると面白いことがわかった。
- processing を勉強しておく、より良い作品が作れたなど後悔しています。
- 計画的に課題を進めること。計画的にやらないと期末前に焦って時間を取ってやってしまうため、前々から継続して制作を続けるべき。
- 課題は構想した後に早めにやろう。そしてもし出来上がったなら、すぐに上げて、そこから手直しをする場合は手直しをしよう。
- コロナウイルスへの不安により登校が難しかったが、柔軟に対応していただけてとてもありがたかった。

担当教員インタビュー

Q この授業で特に気をつけているところは何ですか？

A 受講者の皆さんが、自分たちの表現したいという意志に基づいて、いかに自由かつより高レベルの成果物にたどり着けるかということに気をつけています。

Q この授業を担当していておもしろいところ、楽しいところを教えてください。

A 個々人のテーマの捉え方と、それを成果物として実現するプロセスの違いから、さまざまな表現が生まれてきます。その多様さが担当していて楽しいです。そして、受講者の皆さんが、それを言語化する過程を通じて自らが表現することについて意識することや、お互いの表現の違いに気づいて受け入れられるようになってくると、教員としてもやりがいがあります。

Q この授業の履修者、またはこれから履修しようと考えている学生へのメッセージをお願いします。

A 受講者によっては、オリジナルな表現に取り組もうとしても、力及ばずに成果物としてそれが実現されたとはまで言えないケースがままあります。しかし、そのチャレンジ精神は評価しますので、縮こまらずに自分の表現したい物事に取り組んでいくことの楽しさ（と、いくばくかのしんどさ）を知ってもらえたらと思います。